

令和6・7年度「高等学校における通級による指導」実践研究  
成果中間報告書

研究主題

「個々のニーズに応じた教育内容の改善と校内体制の見直し」

山梨県立中央高等学校定時制

校 長 中込 一成

担 当 者 江上 桐子

秋山 香江

山梨県甲府市飯田五丁目6-23

電話番号 055-226-4411

FAX番号 055-226-4420

## 1 研究のねらい

本校は、午前部、午後部、夜間部を併設した定時制高校（単位制）である。通級指導開始から7年目に入った。今年度は異動に伴うスタッフの入れ替えがある中、今まで培ってきた中央高等学校の通級指導の良さを大切にしつつ、多様化する生徒の実態に沿った指導ができるよう、様々な視点からさらなる工夫が必要であると考えた。

本校には、人と関わるのが苦手な生徒や、感情のコントロールが苦手な生徒、家庭の事情が複雑な生徒など、様々な困難を抱えている生徒たちが在籍している。通級は学校設定科目「社会探究」として開設し、履修する生徒たちは自ら自分の苦手意識を改善したいと考えている。彼らを支援するために、授業内容や生徒の様子など、担任をはじめ、他の教員や家庭とも、より情報の共有が必要であることを痛感している。4月に、生徒たちの状況把握をしているところで感じたことは、生徒たちにはある程度共通する困り感があり、自分なりに解決策をもっていることである。その考え方を整理し、応用する必要性を感じている。一方、校内の体制については、家庭はもちろんより多くの教員に通級の実態の理解を図るための見直しが必要であると考えている。このような理由から今回の研究主題を設定した。

## 2 研究体制・組織

### (1) 通級委員会

通級委員会は、校長、副校長、教頭、事務長、教務主任、教育相談主任、教育相談副主任、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、年次主任にて構成される。通級による指導「社会探究」を履修する生徒の決定および単位認定を行う。

### (2) 教育相談係

#### ア 履修者の決定

三者懇談時、生徒全員に「通級による指導（社会探究）」案内を配付する。履修を希望する生徒には、保護者面談を行い、生徒および保護者の希望を聴き取る。通級委員会を運営し履修者を決定する。職員会議において履修者の確認を経た後、生徒の時間割の調整を教務と連携して行う。この際、同じ講座になる生徒同士の相性も考慮しながら時間割を組む。

#### イ 「社会探究」学習プログラムの提案

通級による指導「社会探究」で用いる学習プログラムについて、既存のプログラム（平成30年度より使用、桜美林大学心理・教育学系小関俊祐研究室と協働開発）が扱っていない分野や活動を伴うものなど、様々な生徒の状況に対応できるように多様なプログラムを開発し提案を行う。

#### ウ 生徒の実態把握アンケート等の実施

保護者に対しては入学予定者保護者対象アンケートを、新入生に対しては生徒の実態把握としてTKバッテリー検査を実施している。その結果は担任や年次に資料を提供したり、必要なデータを生徒指導支援会議（年6回開催）に提示したりしている。また、全職員に

よる「生徒の学習・行動・対人関係への『気づき』調査」も実施し、生徒指導支援会議の資料としている。

### 3 研究の内容と進行状況

#### (1) 「通級による指導」のこれまで

本校では、高等学校における「通級による指導」の制度化がなされた平成30年度から、学校設定科目「社会探究」として「通級指導」を開始してきた。今後の課題を見いだすために、これまでの6年間を振り返る。

#### ア 授業プログラムと自立活動区分

文部科学省では、「通級による指導」の対象となる生徒について「通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度の者」としている。「医学的な診断の有無のみにとらわれないように留意」、「障害者手帳の有無は問わない」、一部を取り出しての指導はなじまないとして「知的障害」は含まれないとしている。また、「通級による指導」の内容は、特別支援学校における自立活動6区分27項目に相当する、「個々の生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う」ものとされている。

Pro	時	学習タイトル	主な内容や目的	自立活動区分
01	1 2	ちょっと先の未来図①②	具体的な行動目標を立てる。	1.2.3.4.5.6
02	3	リラックスしよう	リラックスを体験する	2.5
03	4 5	自分の特徴を知ろう①②	自己理解を促進する	1.2.3.4.5.6
04	6 7	ストレスと上手につき合おう①②	心理的安定を促進する	1.2.3.6
05	8 9	行動のメリット①②	行動の般化を促進する	1.2.3.6
06	10	適切な距離感	他者との距離感を体験する	3
07	11 12 13 14	コミュニケーションのコツ ①②③④	話す、聞く、対話する	3.6
08	15 16	相談できる人、場所を見つけよう	問題解決訓練 社会技能訓練	2.3.6
Pro	時	学習タイトル	主な内容や目的	自立活動区分
09	17 18	ベストのパフォーマンスをするには	自己理解を促進する	1.2.3
10	19 20	約束を守るためのコツ	自己調節を促進する	1.2.3
11	21 22	あいつが悪い!?私はダメやつ!?	認知のゆがみを調節する コミュニケーション能力の開発	2.3.6
12	23 24	イライラした時どうする	アンガーマネジメント	2.3.6
13	25 26	コミュニケーションのコツ	自己主張訓練 コミュニケーション能力の開発	2.3.6
14	27 28	整理整頓でスッキリ	自己理解を推進する	1.2.3
15	29 30 31	うまくいかない行動を分析して解決	機能分析、応用行動分析 問題解決訓練	2.3.6
16	32 33 34	自分の取り扱い説明書を作ろう	自己理解を促進する 環境の把握を促進するなど	1.2.3.4.5.6
17	35	1年前の自分と今の自分	ふりかえり 自己評価	2

1 健康の保持  
2 心理的な安定  
3 人間関係の形成  
4 環境の把握  
5 身体の動き  
6 コミュニケーション

表1 【授業プログラムの学習タイトル・学習内容・自立活動区分】

本校で使用してきたプログラムは、自立活動区分の「2 心理的安定」と「3 人間関係の形成」、次いで「6 コミュニケーション」を多く取り上げている。高校における「通級による指導」で取り上げる自立活動区分としては適切であると考え。平成 30 年の桜美林大学小関研究室の報告では、授業前後に生徒の「自己効力感、自尊感情、社会的スキル、ストレス」について調査を行い、この心理教育プログラムがストレスと問題行動の低減に有効であったと結論づけている。

### イ 「通級による指導」の手続き

本校は単位制のため、翌年の時間割を 9 月に履修指導を行って決める。2 年次以上の生徒全員に対して、1 月の三者懇談で通級による指導の案内を配付し、希望者を募る。講座受講者は、通級委員会で決定した後、職員会議で確認を行う。受講が決まった生徒は、時間割に追加もしくは履修教科を変更する形で「社会探究」を履修する。時間割に追加するか変更するかは生徒の希望に従う。

1 年次生に対しては後期（10 月）からとなり、6 月に通級による指導の案内を配付し 7 月の三者懇談で希望者を募る。時間割は新たに「社会探究」を追加する形となる。

本校では授業ごとに教室を移動することや一人ひとり時間割が異なることもあり、「社会探究」を履修していることが他の生徒には分かりにくい状況がある。

### ウ 「社会探究」受講者状況

これまでの 7 年間で「社会探究」を受講した生徒は延べ 94 名になる。表で示したとおり受講者数は、近年増加傾向にある。今年度後期は新入生の希望者が多く、教員の持ち時間を超過して開講することとなってしまった。これは年度途中で開講することの問題点であり、後述するが来年度からは 1 年次の募集は行わないこととなった。

	4年次生	3年次生	2年次生	*1年次生 (後期から)	合計
平成30年度	3	2	1	2	8
令和元年度	2	2	4	5	13
令和2年度	1	3	6	3	13
令和3年度	1	7	2	2	12
令和4年度	6	2	4	2	14
令和5年度	3	5	4	3	15
令和6年度	3	3	7	6	19

表 2 【「社会探究」受講者状況】

## エ 「社会探究」単位受講状況

科目	単位数	人数
社会探究 I・II・III	8	2
	7	4
	6	2
社会探究 I・II	5	6
	4	9
社会探究 I	3	1
	2	8
	1	2
合計		32

1年次から毎年「社会探究」を履修すると、4年卒業では7単位、3年卒業では5単位になる。これまでの生徒は、履修申請時のものだが、1単位から8単位（卒業延期となったため）と幅がある受講状況となっている。

表3 【「社会探究」単位受講状況】

## オ 「社会探究」授業の実際

各講座生徒1～2名に対して、教員は2名で担当する。授業は他の科目と同様2時間連続で開講している。内容としては、おおまかに①1週間の振り返り②プログラムの実施③個々の生徒の状態に応じた支援の3項目で実施する。

通級専任の教員はいない。毎年4月に教員配置が決まった後、教務から担当教科に時間が割り振られ、教科内で話し合い担当者を決めている。教員が2名で担当することの目的としては、①記録を作成する、②コミュニケーションスキルのモデルを演ずる、③生徒の反応を客観的に観察する、④生徒ならびに担当教員の安全を確保する、⑤担当教員の不適切発言や言動を防止する、の5点があげられる。発達障害による特性等から、別の生徒や教師の発言が誤解される可能性もあり、それを防止するためにも教員2名で担当することは非常に重要であると考えられる。

## カ 授業プログラムと認知行動療法の技法

本校が使用してきたプログラムは、認知行動療法に基づいており、それを表に示す。

Pro	時	学習タイトル	認知行動療法の技法
01	1 2	ちょっと先の未来図①②	セルフモニタリング, 動機づけ, SST
02	3	リラックスしよう	呼吸法, 漸進的筋弛緩法, セルフコントロール
03	4 5	自分の特徴を知ろう①②	セルフモニタリング, 動機づけ
04	6 7	ストレスと上手に付き合いよう①②	ストレスマネジメント
05	8 9	行動のメリット①②	行動活性化, 機能分析, 応用行動分析
06	10	適切な距離感	SST
07	11 12 13 14	コミュニケーションのコツ ①②③④	表情認知, SST, バーバル/ノンバーバルコミュニケーション
08	15 16	相談できる人、場所を見つけよう	問題解決訓練, SST, 援助要請スキル



Pro	時	学習タイトル	認知行動療法の技法
09	17 18	ベストのパフォーマンスをするには	セルフモニタリング, SST
10	19 20	約束を守るためのコツ	セルフモニタリング, SST
11	21 22	あいつが悪い!?私はダメやつ!?	認知再構成法
12	23 24	イライラした時どうする	アンガーマネジメント, セルフコントロール
13	25 26	コミュニケーションのコツ	アサーション, SST, パーバル/ノンパーバルコミュニケーション
14	27 28	整理整頓でスッキリ	セルフモニタリング
15	29 30 31	うまくいかない行動を分析して解決	援助要請スキル, 問題解決訓練, パーバル/ノンパーバルコミュニケーション
16	32 33 34	自分の取り扱い説明書を作ろう	セルフモニタリング, セルフコントロール
17	35	1年前の自分と今の自分	セルフモニタリング

表4 【授業プログラムの学習タイトル・認知行動療法の技法】

技法としては、「セルフモニタリング」と「SST」が多く取り入れられている。全体として自分の考え方、認知にかかわる自己理解を中心とした学習活動が多くなっている。

プログラムの具体例として、プログラム11「あいつが悪い?!私はダメなやつ?!」を示す。

11 あいつが悪い?!私はダメなやつ?!① 番号 名前

**復習**

**出来事**

同じ出来事でも、考え方によって、感じる事(気持ち)は変わる

考え(認知)によって感じる事が変わることをご以前に学びました。それでも、最初に思い浮かぶ認知は自動思考といって、自動に思い浮かぶものですからなかなか変えるのは難しいと言われてます。だから、自動思考が思い浮かんだ後の対処が大切です。自分の認知を再確認する方法を学んで、少しでもストレスを減らす、楽になる考えかたを身につけていきましょう。

私がマイナスのことをされた場合・・・  
例えば

仲良くしている友達に、「1週間後の日曜日、遊びに行かない?」と、お昼頃お誘いのメールをしましたが、21時を過ぎて返事がきません。さてあなたはこんな時どんな考え(認知)が浮かびますか?

出来事	考え(認知)	感情
返信がこない	①	
	②	
	③	

考え(認知)は、感情だけではなく行動にも影響しましたね。行動を分析してみましょう。

毎日一緒にお弁当を食べている同じクラスの友達に、自分がお手洗いに行っている間に、いつもは一緒に食べないグループと昼食を食べていました。さてあなただったら、こんな時どんな考え(認知)が浮かび、どんな行動をしますか?

出来事	考え(認知)	感情	行動
友人が別の人と昼食を食べている	① 嫌われた? /	悲しい	立ち去る
	②		
	③		

図1 【授業プログラム11「あいつが悪い?!私はダメなやつ?!」】

このプログラムでは、「出来事」と「感情」の間に「考え方」があり、「考え方」が変わると感じることも変わるということ学ぶ。

本校生徒の多くは、自分の考えを深めたり言語化したりすること、また抽象的なことを理解することが苦手である。このような生徒に対して、自己認知を問う内容を指導することは大変難しい。「社会探究」は出来ないことを出来るようにする場ではなく、苦手なことを切り抜ける本人なりの方策を身に着ける場であり、ここで学ぶこと自体が生徒の苦痛になるならば、本末転倒になってしまうのではないかと考える。

## キ 「社会探究」担当者アンケート

昨年度末に「社会探究」担当者にアンケートを実施した。その結果を記載する。担当教科は数学、保健体育、地歴公民、商業である。

### a 「社会探究」担当者に必要と思われるスキルや知識について

- ・心理学の知識、特別支援教育の知識（発達障害等の支援方法や指導方法について、支援学校のセンター的機能等を利用して相談をおこなうことも検討）
- ・聴く（生徒の気持ちに寄り添い、落ち着いて、穏やかに）
- ・観察する力
- ・言葉や能力を引き出す力
- ・適切な発問ができる力（生徒に起こった出来事を、内省させることができる能力）
- ・臨機応変に対応できる力
- ・柔軟な考え方、発想力
- ・「抽象的な例え」⇔「一般的な例え」を変換する力
- ・相性・ゆとり

### b 「社会探究」の指導内容について

- ・1週間の振り返りから入ることで、生徒が自分自身を見つめるきっかけができる
- ・プログラムを繰り返すことで、確実に力になっている
- ・基本的にはプログラムに沿いながら、生徒の特性に合わせる
- ・生徒の苦手な面に時間をかけてもいい
- ・自分自身を見つめ、心理面から自分（認知の特徴など）を知ることが一つのポイント
- ・最終的には自分の特性を知り「自分の取扱説明書」の作成を目指す
- ・全生徒がおこなってもよい内容

### c 「社会探究」を担当して感じた課題について

- ・生徒の情報共有（進路希望・家庭環境・特性等）の必要性
- ・「個別の教育支援計画」の活用

- ・生徒の個性に合わせた柔軟な対応、臨機応変な対応
- ・担当者のための学習会（通級・心理学・特別支援の専門講師等）の実施・学習内容の、学校生活や社会生活への般化・担当教員との相性

#### d その他

- ・担任や年次、保護者との情報交換・職員向け研修会の実施
- ・「通級」の内容について周知・授業内容の般化の促進
- ・より多くの教員が「社会探究」を担当・担当教員同士の連携
- ・「全教員がインクルーシブ教育を理解し指導できる」が国、県の指針
- ・児童発達支援士や発達障害コミュニケーションサポーター等の資格取得

## (2) 今年度の取り組み

### ー中央高校における通級指導についてー

#### ア 今年度の実践

今年度の人事異動により、通級による指導を担当する教育相談部は、一人を除き全職員が入れ替えとなった。この機会に、これまでの「社会探究」を見直し、内容の検討をしている。行ってきた実践は、①授業の流れづくり②一緒に授業をする先生方との連携③担任の先生方・年次の先生方との連携④通級を始める時期の検討⑤教材作り⑥通級生の保護者との面談⑦個別の教育支援計画と個別の指導計画の整理⑧学校全体への周知⑨放課後 SST の実施、の 9 項目である。

#### イ 生徒の現状とニーズの把握

今年度の「社会探究」履修者は 19 名であり、発達障害の診断がない者もいるが、精神障害者保健福祉手帳については 2 名が所持している。生徒の状況としては、自分の気持ちを人に伝えるのが苦手な者が多く、人の話を聞くことより自分の話をする、人との距離感がつかめない、考え方が極端で、思い込みが強い、整理整頓や気持ちのコントロールが苦手などの特徴がある。一方、その生徒なりに困難に対応する力をもっており、基本的に素直であることから、教師側の少しの援助により、その力を発揮できると感じている。また、年度の途中ではあったが保護者面談を行い、保護者の願いやこれまでの生育状況などの詳細についての聞き取りをすることができた。

#### ウ 「社会探究」授業の実際

##### a 授業を行うにあたっての配慮

授業の際に配慮しているのは、次の 7 項目である。①生徒の話をする時は、基本的に傾聴し、共感する。②アドバイスは必要に応じてする。③肯定的な姿勢で生徒に向き合いし



っかり話を聞く。「ダメ」というより「〇〇した方があなたにとっていいことがある」という姿勢で話をする。④「どう思う？」と聞く。当たり前のことかもしれないが、ついこちらが話をしてしまいがちになることもあるので意識している。生徒2人が話すバランスも考えながら進める。自分以外の人がどんな考えを持っているのか知ることはよい経験になる。⑤どんなにシンプルな考えでも、共感するように努める。言葉での表現が苦手な生徒は、意見を発表しても一言だったり、不愛想に感じたりすることがある。だが、その意見に対しても「そうなんだね」と共感するように努めている。⑥生徒が言葉に詰まったら、選択肢を出して選べるようにする。言葉にすることが苦手な生徒は、自分の気持ちを伝えることに抵抗感を感じる。そんな時は様子を見ながら、いくつか選択肢を出し、「～ということ？」と選べるようにする場合もある。⑦本人にこちらの思いを伝える時（評価）、は詳しく伝える。「いいね」だけではなく、「〇〇なところがいいね」「〇〇だったから〇〇でよかったよ」また、そう言ってくれたから「うれしい」などと具体的にこちらの気持ちも伝えるようにしている。

#### **b 振り返りの活用**

授業の最初に毎回振り返りを行っている。具体的には、個別に分かれて発表する内容を整理し、グループに戻り一人ずつ発表する。その後、質問をしながらその話題について話し合う。この振り返りによって、①生徒が自分の気持ちを人に伝える場になる。②質問を話し合うことで、コミュニケーション力の一助となる。③生徒の現状状況を把握することができる。などが期待できる。

ここで大切なことは、枠組みをしっかりとしておくことである。生徒たちは話を聞いてもらいたいため、枠組みがないといつまでも話してしまうことや、一人で勝手にネガティブな方向になりかねない。生徒にのびのびと話をさせつつ、教師側で引っ張っていくことが重要である。その中で「今、その生徒に必要なこと」を把握し、教材として取り上げることが大切になっている。

### c 教材例 「わたしはこんな人です！」

わたしはこんな人です！

1. わたしの名前は\_\_\_\_\_です。  
\_\_\_\_\_と呼んでください。  
クラスは\_\_\_\_\_です。
2. 生まれた月は\_\_\_\_\_月です。
3. 好きな食べ物は\_\_\_\_\_です。  
苦手な食べ物は\_\_\_\_\_です。
4. 今、はまっていることは\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_です。
5. 好きな色は\_\_\_\_\_です。なぜかという、  
\_\_\_\_\_だからです。
6. 好きな季節は\_\_\_\_\_です。なぜかという、  
\_\_\_\_\_だからです。
6. 犬派か猫派といわれたらどちらかという\_\_\_\_\_です。
7. 好きなテレビ番組は\_\_\_\_\_です。
8. 好きなアニメは\_\_\_\_\_です。
9. 中央高校で\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

ことをがんばろうと思っています。  
よろしくをお願いします。 何か質問はありますか？

図2 【教材例「わたしはこんな人です！」】

これは、最初の授業で自己紹介のために用いる教材である。発表が苦手な生徒も取り組みやすく、内容は生徒の状況に応じて変えて使用している。

「なぜかというところ」に考え込む生徒もいるが、様子を見ながら例を出して考えてもらう。そこで盛り上がることもある。「社会探究」は少人数であるから、大きな集団では出せないようなリアクションやコメントを聞くことができる。いい一言などを聞いた時は、忘れないようにメモをし、今後の授業内容に生かせるように心がけている。

## 4 これまでの成果と課題

「社会探究」を希望する生徒の保護者面談を直接行い、その願いを聴き学習内容に反映することができた。個別の教育支援計画の整備も行い体制が整った。制度として大きな変更は、新入生に対する「社会探究」のスタートを、1年次後期から2年次4月にすることである。その理由はふたつ、まず入学してからの数ヶ月で、当該生徒にとって通級が必要であるかどうか、その必要性を見通すことが難しいことと、そして通級を担当する教師の持ち時間等に問題が発生したことからである。授業の配当時間は4月の段階ですでに決まっており、後期からの通級希望者が予想よりも多く、授業者(教員)と施設設備を確保することに不具合が生じた。来年度は、履修対象を2年次生以降とし、その間にサポートする必要がある生徒は、「お試し通級」や「放課後SST」を実施して対応していく予定である。

課題としては、次の3点があげられる。まず、担任、年次との密な連携を取ること。これは、生徒情報を共有する、「社会探究」での学習の般化をめざす、生徒の状況を学習プロ

グラムへ反映することに繋がる。次に、特別支援教育等に関する研修会を実施すること。発達障害の生徒は増加の一途であり、本校では誰もが担当者になりうることから、毎年全職員を対象とすべきと考える。最後に、多様な授業プログラムの開発と周知を行うこと。現プログラムが扱っていない分野や活動を伴うものなど、様々な生徒の状況に対応できるように多様なプログラムを準備し、その内容を周知して、LHRでも自由に活用できるようにしていきたい。

## 5 今後の研究計画

- (ア) 学習プログラムの内容の検討と開発および整理
- (イ) 「社会探究」授業内容の共有
- (ウ) 全職員対象の研修会の開催

## 6 その他

特になし